

令和 6 年度先導的の大学改革推進委託事業  
「看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた調査研究」

成果報告書  
(事業 2.3)

令和 7 年 3 月 21 日

一般社団法人日本看護系大学協議会

---

本報告書は、文部科学省の大学改革推進委託費による委託業務として、一般社団法人日本看護系大学協議会が実施した「令和6年度先導的大学改革推進委託事業：看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた調査研究」の成果を取りまとめたものです。  
従って、本報告書の複製、転載等には文部科学省の承認手続きが必要です。

---

# 目次

はじめに.....	1
1. 令和6年度先導的大学改革推進委託事業「看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた調査研究」の事業概要.....	1
第1章 事業2.3の目的・概要・委員会開催概要・実施体制.....	2
1. 事業2.3の目的と概要.....	2
1) 事業2.3の目的.....	2
2) 事業2.3の概要.....	2
2. 事業2のパブリック・コメントの概要.....	2
1) パブリック・コメント実施期間:2024年8月23日～9月12日.....	2
2) パブリック・コメント数.....	2
3) 意見の傾向.....	2
3. パブリック・コメント意見への対応と修正.....	2
1) 特別ワーキンググループの構成メンバー.....	2
2) 特別ワーキンググループの会議の実施回数.....	3
3) 意見の採択基準と資質・能力、教育内容の修正.....	3
4. 事業2の「教育学」の有識者への意見聴取.....	4
5. 事業3の看護学教育モデル・コア・カリキュラム最終案.....	4
6. 事業2.3の委員会開催概要.....	5
7. 実施体制.....	5
第2章 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂案.....	6
1. 看護学教育モデル・コア・カリキュラム【本文】.....	6
2. 看護学教育モデル・コア・カリキュラム【資質・能力】.....	6
3. 看護学教育モデル・コア・カリキュラム【教育内容】.....	6
4. 看護学教育モデル・コア・カリキュラム【概要】.....	6

## はじめに

### 1. 令和 6 年度先導的大学改革推進委託事業「看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた調査研究」の事業概要

日本看護系大学協議会(以下、「JANPU」という。)が文部科学省より『令和 6 年度「先導的大学改革推進委託事業」看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた調査研究』を受託し、「2040 年以降の社会を想定した看護師、次世代を担う看護実践能力、そのために必要な教育内容」を明らかにすることを目的とし、本事業を実施した。

本事業は、令和 5 年度成果報告としての「看護学教育モデル・コア・カリキュラム骨子・素案」を基盤とし、下記に示す【実施方針】並びに【事業内容】に基づき、看護学教育モデル・コア・カリキュラム(改訂案)を作成した。

#### 【実施方針】

本事業では、以下の実施方針で「看護学教育モデル・コア・カリキュラム(案)」の作成を行う。

- 1) 令和 5 年度先導的大学改革推進委託事業「看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた調査研究」の成果である「看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂骨子及び改訂素案」を基に作成する。
- 2) コンピテンシー基盤の構成とし、JANPU が 2018 年に公表した「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」との整合を図る。
- 3) 社会のニーズを踏まえ、以下の視点に基づいて内容を充実させる。
  - ・新興感染症や複合災害等の健康危機に対応可能な未来型保健人材像をめざす。
  - ・情報・科学技術を生かすための教育内容を充実させる。
  - ・タスクシフト・シェアの推進を踏まえた看護技術修得を充実させる。
- 4) DX を生かしたハイブリッド型教育を踏まえた学習方略と評価を含める。
- 5) 文部科学省看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会(以下、「連絡調整委員会」という。)での意見やパブリック・コメントを踏まえて作成する。

#### 【事業内容】

成果物は、①看護学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂案、②パブリック・コメント等を踏まえた看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂修正案、③成果報告書の電子データ、④改訂後看護学教育モデル・コア・カリキュラムの概要、の 4 点である。

事業内容は、以下の 3 つの事業から構成される。ただし、成果物①については既に提出し、これに基づき成果物②として修正された。従って、本報告書では、事業 2.3 を報告し、成果物②③④を提出する。

事業 1:「看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂案」を作成(成果物①)

- ①資質・能力案のスリム化、②学修目標設定、学修評価と到達度の設定、③用語の洗練を実施し、④「看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂案」第 3 章の学修評価・学修方略案の作成、⑤ブループリント作成、⑥各層の識別力の検証、各種文書との整合性の確認、について実施した。

事業 2:連絡調整委員会の意見、パブリック・コメント等を踏まえた「看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂修正案」の作成(成果物②)

事業 3:事業2の成果物に関する各層の識別力の検証、看護教育の各種文書・各種論文等の整合性の検証と学習方略の追記による「看護学教育モデル・コア・カリキュラム最終案」の作成(成果物②③④)

## 第1章 事業 2.3 の目的・概要・委員会開催概要・実施体制

### 1. 事業 2.3 目的と概要

#### 1) 事業 2.3 の目的

「看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂案」の作成を目的とする。

#### 2) 事業 2.3 の概要

「看護学教育モデル・コア・カリキュラム最終案」を作成するため、以下の手順で実施した。

##### 事業 2

- ①パブリック・コメント(以下、「パブコメ」という。)の整理
- ②有識者への意見聴取
- ③看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂修正案の作成

##### 事業 3

- ①資質能力・到達度・教育内容(看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂案 第 1.2 章)について各層の識別力の検証
- ②資質能力・到達度・教育内容(看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂案 第 1.2 章)について看護教育の各種文書・各種論文との整合性の検証
- ③「看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂修正案」第 3 章の学修評価の修正と追記
- ④「看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂修正案」第 3 章の学修方略案の作成
- ⑤「看護学教育モデル・コア・カリキュラム最終案」の作成

### 2. 事業 2 のパブリック・コメントの概要

1)パブリック・コメント実施期間:2024年8月23日～9月12日

#### 2)パブリック・コメント数

パブコメ数は以下の表のとおりである。

看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂本文 Forms	96
資質・能力 Forms	256
教育内容 Forms	163
パブコメサイトやファイル提出意見	60
合計	575
連絡調整委員会からの意見	28

#### 3)意見の傾向

パブコメの内容は、①根拠に基づく修正案の指摘、②モデルコアカリ改訂案に対する感想や批判、③学会等団体からの集約された意見、に大別された。

### 3. パブリック・コメント意見への対応と修正

JANPUと文部科学省で修正調整を行った。「本文」への意見については、文部科学省で採否を決定し、事業全体統括者である鎌倉常任理事、看護実践能力評価基準検討委員会荒木委員長、西村副委員長が、修正を担当した。

「資質・能力」「教育内容」に対する意見は、文部科学省と連絡調整委員会の要請によって JANPU が設置した特別ワーキンググループにおいて、全てのパブコメを確認、採択基準を作成して採否を決定し、採択された意見に対する修正案を作成した。さらに、修正案については、看護実践能力評価基準検討委員会で検討し合意を得た。

#### 1)特別ワーキンググループの構成メンバー

令和5年度看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する調査研究事業で依頼した有識者(各学会等団体からの推薦)を中心に、連絡調整委員会からの推薦を受けた者2名を含む27名に依頼し、ワーキンググループを構成した。

特別ワーキンググループは、パブコメを以下のように分担した。また、教育内容は専門性が高いことから、特別ワーキンググループメンバーからの推薦を受けて、協力者として4名に依頼した。会議は、特別ワーキンググループメンバーと看護実践能力評価基準検討委員会委員によって実施された。看護実践能力委員会委員長・副委員長は全議論をまとめるため、全ワーキングに参加した。なお、ワーキングに文部科学省看護教育専門官も可能な限り参加した。

特別ワーキング資質・能力担当		特別ワーキングメンバー
グループ 1-1	PS, CS, GE の Forms	5名
グループ 1-2	PS, CS, GE の自由意見	4名
グループ 2-1	QS, SO	3名
グループ 2-2	IP, PR, LL	3名
グループ 2-3	RE, CM, IT	4名
特別ワーキング到達度担当		4名
特別ワーキング教育内容担当		4名(+協力者4名)

## 2) 特別ワーキンググループの会議の実施回数

- ① 特別ワーキングの全体会議は第 1.2.3 回で実施したが、各 3 回実施し、全メンバーの意見を確認した。
- ② 各グループでの会議は5回以上、オンラインで実施した。またそれ以外に、非同期コミュニケーションツール(Slack)を活用し、意見交換した。
- ③ 特別ワーキングの全体会議・各グループ会議以外に、グループを超えた議論が必要な内容については、グループ間の合同会議を複数回実施した。

## 3) 意見の採択基準と資質・能力、教育内容の修正

### ① 【資質・能力】

表現の修正、資質・能力の層構成の修正、資質・能力の加除などの意見があった。以下に示す基準を設定し意見の採否を決定し、修正案を作成した。その結果、資質・能力の加除修正を行い、764 から 8 項目減少し 756 となった。特別ワーキングの検討結果、第 4 階層の到達度やブループリントに関する補足説明、11 資質・能力の視点の違い、ライフサイクル各期の補足説明、IT の概念整理と補足説明などは、委員会が所掌し作成した。

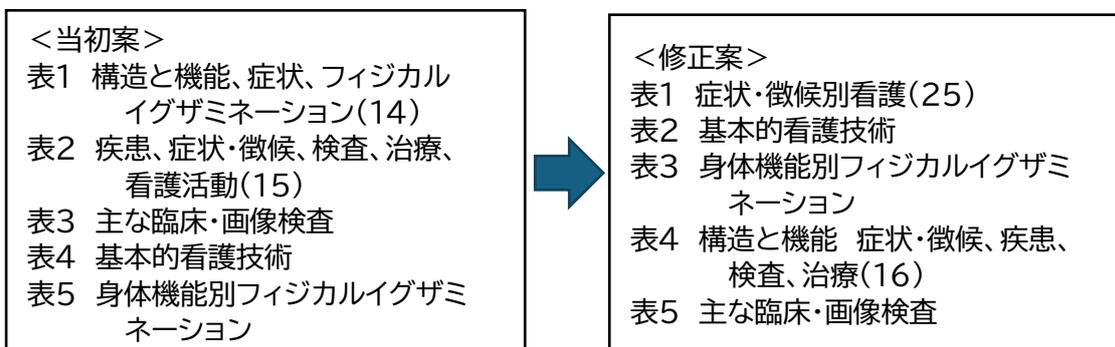
- 不採用基準
  - ・(資質・能力追加の提案に対して)他のコンピテンシーでカバーできる場合
  - ・(改訂案が)文献的に妥当性が確認できている場合(パブコメ意見があっても)
  - ・到達度の見直しにより対応可能である場合
  - ・根拠が不明の場合
  - ・具体的な提案がない場合
  - ・指摘の内容が不明確
  - ・指摘の内容は元の文と齟齬がない場合(指摘の内容は改訂案と齟齬がない)
- 採用基準
  - ・提案の根拠が明確であり文献などから妥当性が確認できる場合
  - ・コンピテンシーの追加に関する意見については、他のコンピテンシーでカバーできない内容であり、かつ、コアな教育内容であるとグループ内で合意が取れた場合
  - ・表現の修正については提案内容が妥当であるとグループ内で合意が取れた場合

### ② 【教育内容】

パブコメを受けて、項目の修正案、別表構成に対する意見があった。特に、「医学知識が多く、ケア(療養上の世話)に関する内容が少ない」との意見に対して、症状・徴候別看護の表を新設。国家試験出題基準のうち「症状と看護」28 項目中、概念が重なるものを整理し 25 項目を作成した。次に、表の順序についても検討した。看護は常にアセスメントの視点から観察を行い、看護実践へとつなげていることから、その様に【表 1.症状・徴候別看護】を構成した。次に、症状・徴候のみならず身体的(生活行動含む)・精神的・社会的ニーズを捉えて、実践を行う技術として【表 2.基本的看護技術】を構成した。さらに、これらの実践を行う際には、【表 3.身体

機能別フィジカルイグザミネーション】を活用して、構造・機能や生活行動を観察して臨床判断し【表 4.構造と機能、症状・徴候、疾患、検査、治療】、そのデータを吟味する検査の視点【表 5.臨床・画像検査】を有して活用するとの順序とした。

また、その他の意見に対して、提案根拠が具体的かつ明確で、文献などから妥当性が確認できた場合、今後の看護教育に必要と判断された場合には採用とし、修正に反映させた。



### ③到達度グループ

パブコメ等の意見を受け、意見の多かった到達度について検討し、Millerの表現と図表の見直し、実習体制と委託の程度の表現と表の見直しを行い、特別ワーキンググループ全体会議へ提案した。資質・能力グループはそれを受け、到達度の見直しを行った。

### ④用語訂正

用語については、当初看護学や看護用語の標準として「MEDIS看護実践用語標準マスター」を用いたが、令和5年度第4回調査やフィードバック検証において、用語に関する意見が多く認められ、看護実践能力評価基準検討委員会にて用語訂正を検討した。

その結果、看護学教育において準拠すべき標準的な用語集は見当たらず、現在最もコンセンサスを得ている用語にそろえていくこと、今回の改訂案での表記ゆれを是正していくことが必要であるとの判断から、看護系書籍の出版実績のある出版社へ校正を委託した。表記ゆれに対しては、「表記ゆれ訂正支援プログラム」を開発し、その結果を参考として校正者へ渡した。最終的な用語訂正の内容は、看護学教育モデル・コア・カリキュラム本文の第1章に記載した。

## 4. 事業2の「教育学」の有識者への意見聴取

パブコメ等の意見を踏まえて作成した「看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂修正案」について、以下に記す教育学の専門家3名から意見を聴取した。意見聴取には文部科学省と看護実践能力評価基準検討委員会委員長・副委員長が参加した。その結果は、特別ワーキンググループに公開した。

東京都立大学 大学教育センター	松田 岳士 教授
京都大学大学院教育学研究科 教育学環専攻	西岡 加名恵 教授
京都大学大学院教育学研究科 教育学環専攻	松下 佳代 教授

## 5. 事業3の看護学教育モデル・コア・カリキュラム最終案

事業2で、2024年11月30日に提出した看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂修正案は、以下の経緯で修正を重ねた

- ・第5回連絡調整委員会への事前説明時の意見に基づく修正
- ・第5回連絡調整委員会での意見に基づく修正
- ・第6回連絡調整委員会開催前の医学教育課との調整に基づく修正
- ・第6回連絡調整委員会での意見に基づく修正

その後、文部科学省との調整を経て、3月14日に最終案として、看護学教育モデル・コア・カリキュラム【本文】【資質・能力】【教育内容】を提出した。

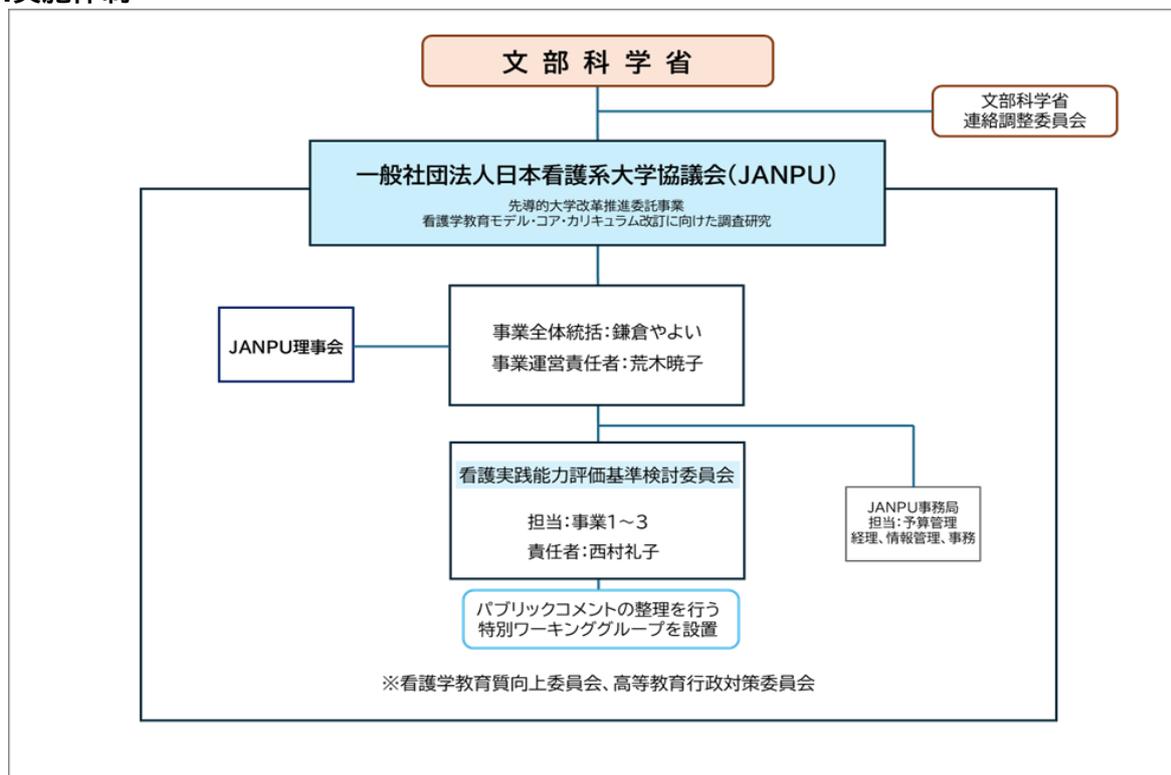
2025年3月17日「看護学教育モデル・コア・カリキュラム令和6年度改訂版」として、文部科学省から発出された。[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/iryuu/mext\\_00021.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/iryuu/mext_00021.html)

## 6. 事業 2.3 の委員会開催概要

JANPU では看護学教育モデル・コア・カリキュラム最終案を作成するため、事業2.3として2024年6月から2025年3月までに、計76回の会議を開催し、看護学教育モデル・コア・カリキュラム最終案を作成した。

会議の種類は、委員会・ワーキンググループ会議開催32回、看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂案修正のための文部科学省医学教育課との会議開催20回・JANPU 内部の会議開催24回であった。

## 7.実施体制



担当	業務担当責任者
事業全体統括	鎌倉 やよい(JANPU 常任理事)
事業運営責任者	荒木 暁子(JANPU 看護実践能力評価基準検討委員会委員長、東邦大学看護学部教授)
事業責任者	西村 礼子(JANPU 看護実践能力評価基準検討委員会副委員長、東京医療保健大学医療保健学部教授)

### JANPU 看護実践能力評価基準検討委員会 ※令和6年度より当委員会に加入した委員

役職	氏名	所属	専門分野
委員長	荒木 暁子	東邦大学	小児看護学、看護管理学
副委員長	西村 礼子	東京医療保健大学	基礎看護学、看護教育学
委員	佐藤 聖一	国際医療福祉大学	基礎看護学、看護教育学、看護倫理学
委員	福田 友秀	武蔵野大学	クリティカルケア看護学
委員	野島 敬祐	京都橘大学	シミュレーション教育学、クリティカルケア看護学
委員※	神澤 尚利	東京都立大学	精神看護学
委員※	川村 崇郎	防衛医科大学校	高齢者看護学、在宅看護
委員※	西垣 昌和	国際医療福祉大学	遺伝カウンセリング学、臨床遺伝学、遺伝看護学、保健学
委員※	増澤 祐子	聖路加国際大学大学院	ウィメンズヘルス・助産学
委員※	横田 慎一郎	千葉大学大学院	看護情報学、医療情報学、看護管理学

**令和 6 年度看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂等に関する  
「特別ワーキンググループ」名簿  
(※委託先(日本看護系大学協議会 看護実践能力評価基準検討委員会)に設置)**

石川 幸司	北海道科学大学	
遠藤 英子	国際医療福祉大学大学院	
大平 光子	周南公立大学	
大森 智美	東京慈恵会医科大学	
小山田 恭子	聖路加国際大学大学院	
柊中 智恵子	熊本大学大学院	
黒江 ゆり子	関西看護医療大学	
河野 あゆみ	大阪公立大学(地域包括ケア学分野)	
斉藤 しのぶ	千葉大学大学院	
齋藤 正子	清泉女学院大学	
酒井 郁子	千葉大学大学院	
坂本 なほ子	東邦大学	
柴田 真紀	北里大学	
菖蒲澤 幸子	岩手医科大学	
高見 美樹	兵庫県立大学	
武田 祐子	慶應義塾大学	
中村 裕美	茨城キリスト教大学	
中村 美鈴	名古屋市立大学大学院	
西上 あゆみ	藍野大学	
西田 志穂	共立女子大学	
橋本 侑美	名古屋女子大学	
藤井 徹也	豊橋創造大学	
藤田 冬子	神戸女子大学	
増島 麻里子	千葉大学大学院	
松原 三智子	北海道科学大学	
三木 明子	関西医科大学	
森 寛泰	国立病院機構大阪医療センター	計 27 名(五十音順)

**令和 6 年度看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂等に関する  
「特別ワーキンググループ 協力者」名簿  
(※委託先(日本看護系大学協議会 看護実践能力評価基準検討委員会)に設置)**

井沢 知子	神戸市看護大学	
荻野 康崇	社会医療法人熊谷総合病院	
寺岡 征太郎	帝京大学	
米田 昭子	山梨県立大学	計 4 名(五十音順)

## 第 2 章 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂案

看護学教育モデル・コア・カリキュラム令和6年度改訂版は、【本文】、【資質・能力】、【教育内容】から構成される。概要を記した Power Point ファイルを加え、以下の4点を別に添付する。

- 1.看護学教育モデル・コア・カリキュラム【本文】
- 2.看護学教育モデル・コア・カリキュラム【資質・能力】
- 3.看護学教育モデル・コア・カリキュラム【教育内容】
- 4.看護学教育モデル・コア・カリキュラム【概要】